

## 環境 NEWS (第8回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

■ SDGsに関する、我われ釣り人の『獲りすぎ』について考えてみましょう。

「サカナが減ったのは、プラスチックゴミなどによる海洋汚染でサカナが繁殖しづらくなっただけじゃないの。」「小魚をおう盛に捕食する鵜の大量繁殖による環境変化が大きいんじゃないの。」

「えっ、釣り人がサカナの減少に大きく影響するの？ だとしても、私一人が気にしても...。」ってお思いになるかもしれませんが、とんでもない。

全世界でのスポーツ人口が最も多い種目は『サッカー』だといわれていますが、『釣り』をスポーツだとすれば、プロの漁師さんを含めなくても、釣り人口はサッカー人口をはるかに超える人数になるんだそうですね。

誰でもが釣れるようなすぐれた釣り具が発達した現在、それだけの釣り人が週末に一斉に釣りをすれば、どれだけのサカナがいなくなるのでしょうか。

広大な海に生息しているサカナでも、無尽蔵にいるわけではありません。

わが日本国について考えてみますと、少なくとも漁師さんは過去の経験や反省などから、産卵時期などの禁漁期間の設定や、漁ができる時間帯の設定、漁獲総量の設定、網目を大きくするなどの乱獲防止の対策をとっているそうです。

では釣り人はどうでしょう。

「せっかく来たので、釣れるときには、めいっぱい釣って帰ろう」でいいのでしょうか？

全日本サーフで行っている『大物魚表彰制度』は、成長過程にあるサカナはできるだけ釣らないようにしようとする乱獲防止の観点から設けられた制度だと聞いたことがあります。まさにSDGsな行動だと思います。

今後も、全日本サーフが釣り人の手本になるべくアピールしていきたいですね。

『誰も行かない私だけの釣り場』でゴミ拾いをしたとしても、その行為自体は良いことなのに、残念ながら周りに対する影響力はありません。『一般の釣り人がいる釣り場』で、全日本サーフのワッペンを付けた私たちが行うゴミ拾いや、子ザカナのリリース行動が及ぼす影響力には大きな意味があると信じます。

リリースしてもサカナに大きなダメージを与えないような仕掛けや釣り方をすることも大事ですよ。また、冷凍保存するほどまでの量は釣らないように心掛けることも。

あくまでも釣り自体を楽しみましょう。我われは『漁師さん』ではありません！！

